

生育順調で過繁茂注意！ ～早めの中干しで生育調節～

－ 重点事項 －

- ◎ ワキによる生育停滞を回避するため、水の更新や夜間落水を行う
- ◎ 田植え後 1 か月をメドに、落水して中干しを開始する
- ◎ 水田内の用排水路の役目を果たす溝切りは、確実に実施する
- ◎ 中干し時期を利用して、取りこぼしたヒエや多年生雑草を防除する



1 現在の生育状況 ～高温・多日照により概ね順調～

- 田植盛期は5月11日頃。5月は高温・多日照で経過し、平年より葉齢は進んでいます。多くのほ場で分けつが発生し、順調な生育です。
- 雨が少なく、日照時間が多いため、アオミドロや表土はく離が多く見られます。
- 今後、ワキ発生が多くなり根腐れの心配があります。

2 水の更新で根の健全化と生育促進を！ ～ワキ・アオミドロ対策～

- 稲わらを舂すき込みしたほ場などでは、気温の上昇に伴いワキ（生わら等の分解により発生する有害なガス）が発生し、根腐れや生育停滞を起こします。
- 水の更新や夜間落水により“ガス抜き”、アオミドロ対策を行いましょう。

3 病害虫の徹底防除 ～いもち病とイネミズゾウムシ対策～

- ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょう。
- こしいぶき等のいもち病抵抗性が弱い品種で、薬剤の育苗箱処理をしなかった場合は、6月上中旬をめやすに予防粒剤を本田に散布し、葉いもちの発生防止に努めましょう。
- イネミズゾウムシの被害が大きい場合は、殺虫剤による防除を検討しましょう。

4 適切な畦畔管理 ～雑草を伸ばさない～

- カメムシは休耕田や農道、畦畔などの雑草地で増殖します。特にイネ科雑草が繁茂しないように、定期的な草刈りが大切です。
- 草刈りは、6月から3週間程度の間隔で雑草を伸ばさないようにしましょう。夏本番からでは間に合いません。
- カメムシの繁殖は、農道畦畔だけではなく、本田内の雑草（ヒエやホタルイ）でも繁殖します。取りこぼし雑草の対策も万全に。

5 後期雑草防除 ～取りこぼし・難防除雑草対策のポイント～

- 取りこぼしたヒエや、多年生雑草でお困りの場合は、中干し時期を利用して茎葉散布する後期除草剤の活用を検討しましょう。
- 砂質土壌で減水深が大きいいため、一発除草剤の効果が低いほ場では、落水して茎葉処理する除草剤の使用は効果的です。

☆ 除草効果を上げるためには？（茎葉処理除草剤の場合）

- ① 雑草の根元まで薬剤がかかるように、落水して散布する。
- ② 除草剤は、雑草全体にまんべんなくかかるようにする。
- ③ 雑草が部分的に発生している場合は、その部分だけ散布する。

今月の重点作業

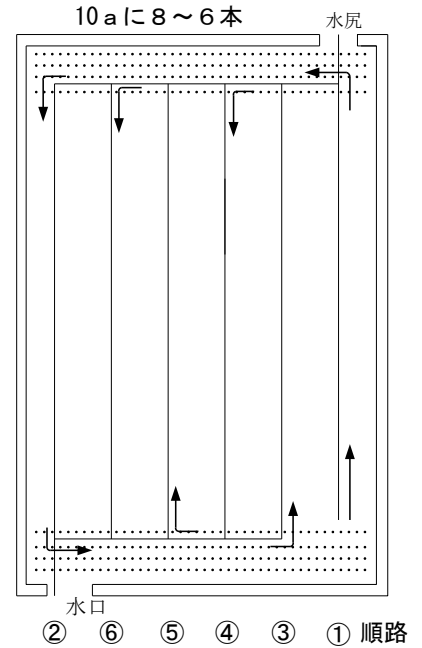
田植え後およそ1ヶ月でスタート ～溝切り・中干しのポイント～

- 中干しの開始時期は、目標穂数の80%の茎数を確保した時期です。
- 田植え後およそ1ヶ月をめやすに落水し、溝切り・中干しを確実にいきましょう。

早期の溝切り・中干しで穂肥をやるイネづくり！

中干し開始時の茎数のめやす (コシヒカリBL・こしいぶき)

- m²当たり茎数：300本
- 1株当たり本数
坪50株植 → 20本
坪60株植 → 17本



溝切りの順序

＝溝切り・中干しの様々な効能＝

- ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保
- ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ④ 収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保
- ⑤ 作溝によりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能
- ⑥ 作溝により秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能

- 溝切りの際は、接続部分を手直しするとともに、必ず水口及び水尻につなぎましょう。
- 中干しは田面に小ひびが入り、軽く足跡が付く程度まで行いましょう。
- 根を広く張らせて登熟向上を図るために、遅くとも出穂1ヶ月前までに終了しましょう。
- 砂質土壌や地力の低いほ場では、弱めの中干しとしましょう。



中干しの強さは、小ヒビが入る程度（上の写真程度）。



6月5日頃の姿。
もう1枚葉が出れば
中干しです。

中干しすることで
イネミスゾウムシ
の幼虫の被害を抑制
できます。



7キ対策は、落水や水の更新で